

女性技術者と懇親 作業環境など把握

佐藤渡辺の社長、役員
現場パトと意見交換会

佐藤渡辺は2、3の両日、女性技術者による安全パトロールと役員との意見交換会を実施した。写真。女性技術者13人のほか、鎌田修治社長、藤岡勝巳安全環境部部長など



17人が、石川県七尾市白浜町で施工を進める「R6能越道徳田大津高田舗装復旧工事」（発注者＝北陸地方整備局金沢河川国道事務所）の現場を視察した。同社北陸支店砺波営業所で開いた意見交換会には、金井義治代表取締役兼専務執行役員、大山龍美、橋本秀浩岡取締役兼常務執行役員も加わり、女性技術者と率直な意見を交わした。

パトロールは、女性技術者同士の懇親とともに、現場の安全対策や作業環境の整備状況、働き方改革の実態を把握し、女性技術者の視点から対策や意見を得ることが目的。意見交換会では「職場で働く中で環境も含めて改善を希望する点」などの事前アンケートを基に議論を深めた。

意見交換会の冒頭、鎌田社長は「復興工事に携わっていることを全社員が確認し、道路舗装の重要性と大切な役割を果たすべく事業に誇りを持ってほしい。当事者意識を持って何事も自分で考え、失敗した際に他人のせいにならず、そこから学ぶことが重要だ」と呼び掛けた。

参加者からは、女性ならではの不安や悩みを相談できる環境づくりや、トイレ付きオフィスカラの導入検討、安全環境部に女性社員を配置し女性目線での現場環境改善に力を入れることなどが提案された。金井代表取締役は、出産・育児といった将来のライフステージの変化に伴う不安に対し、「会社として必ず対応する。希望をもって仕事を続けてほしい」などと述べた。

